

## ピノキオプロジェクト

### 子どもが街と市場をつくり、社会を学ぶ体験学習



「子どもは街で育てよう」をスローガンに、子どもたちが実社会の中で職業体験やワークショップなどの体験学習に参加する「ピノキオプロジェクト」。企業や学校など地域の様々な団体が協力する取り組みで、普段子どもと一緒に活動することの少ない大人にとっても貴重な交流の場となっています。プロジェクト開始から4年目となる今年は10月10・11日に開催します。

#### 試行錯誤で成長

意思を持った木の人形が何度も失敗を繰り返し、試行錯誤しながら人間へと成長する童話『ピノキオ』。そんなピノキオをモチーフに生まれたこのプロジェクトは、失敗や試行錯誤する体験を通じて子どもの創造性や社会性を養う学習プログラムです。

2007年に始まった第一回は、花屋や八百屋、カフェなど様々な職業を体験する「ピノキオマルシェ(市場)」として始まりました。実際の仕事と同じように、働けば報酬としてイベント限定で使用できる通貨「Pi(ピ)」を支給。働く大変さはもちろん、報酬をもらう嬉しさやその使い道を考えることまで、可能な限り実社会に即した体験を行っています。

3年目となる2009年からは「ピノキオマルシェ」とあわせて、子どもたちが理想の街を段ボール等を使って建設する「ピノキオシティ」を開始。企画から当日運営までを地域の子どもたちが行う企画として成長してきました。

毎年複数のアーティストによるワー

クショップも実施して、日常ではなかなか体験できない多彩なプログラムが展開。子どもたちと社会とのコミュニケーションをデザインする取り組みとして、2008年度グッドデザイン賞をはじめ複数の賞に輝く高い評価を得ています。

#### 街の「寛容さ」

そんなピノキオプロジェクトには、子どもの教育に加えてもう一つの狙いが。プロジェクトを統括する松田朋春さんは、その狙いを「街の寛容さを広げる」と表現します。寛容さとは、失敗するかもしれないことを受け入れ、むしろ楽しむ姿勢のこと。子どもの職業体験が軸となるピノキオプロジェクトですが、現実的な大人社会の職場で失敗は歓迎されません。しかし、日々の生活の場である地域コミュニティでは、多少の失敗が許されなければ息苦しく暮らしていくもの。失敗の象徴たるピノキオの輪が広がっていくことは、街に寛容さが広がっていくことの表れとして、プロジェクトを通じた周囲の大人たちの意識変化に期待しているのです。



巨大なピノキオバルーンを中心に作られるピノキオシティ。建設作業はもちろん、そこでの遊びや来街者のもてなしまで、すべて子どもが考え創り上げる。



イラストレーターの高橋信雅さんと一緒に、街中の店舗やピノキオシティの壁を彩る「落書きワークショップ」。普段は禁止されている落書きも、プロのテクニックと皆の協力作業で立派なアートに。

## ピノキオプロジェクト

### 大人も子どもに学ぶ

実際に、過去3回の開催で地域の企業や商店など大人たちの意識は大きく変化しました。当初は、子どもを職場に迎えることがどの程度負担になるのか分からず、協力をためらう企業が大半でした。しかし、回を重ねるごとに、「子どもが職場にいただけで大人も笑顔になる」「失敗を繰り返しながらも、仕事を達成して純粋に喜ぶ姿は、自分たちが忘れていたものを気付かされる」「単純なモノの売り買いだけでなくコミュニケーションが顧客と生まれる」など子どもとともに働く大人から高評価。今では自発的に参加を申し入れる企業も多くなりました。

### 広がるピノキオの輪

ピノキオプロジェクトをより広げていくため、企業以外の団体との連携も重視しています。これまでも、マルシェのカフェで販売するオリジナルメニューを地元の小学校と協力して開発したり、江戸川大学の研究室と共同で地域の環境調査を行

うなど、教育機関を中心に連携を進めてきました。

4年目を迎える今年のピノキオプロジェクトでも、新たな展開が。柏の葉キャンパス駅周辺の飲食店が協力し、過去にピノキオマルシェ限定で販売されたオリジナルメニューの数々がプロの手で復活。実際に営業する店舗で販売されることになりました。また、2010年の新メニューとして、精肉店と農家がタッグを組んで子どものアイデアを具体化したホットドッグ「ピノキオ柏の葉ドッグ」や、地域住民が養蜂しているハチミツをつかったスイーツが誕生。こちらも、今年のピノキオマルシェでの販売のほか、イベント後の地域での継続販売が検討されています。

職業体験やピノキオシティへの参加は小学生以下限定ですが、マルシェへのお客さんとして大人も参加可能。今年は10月10・11日、柏の葉キャンパス駅周辺とらら

ぽーと柏の葉を会場に開催します。

お問い合わせは、ピノキオプロジェクト実行委員会まで

[TEL] 090-1733-0712(受付10:00-18:00)

[MAIL] info@gokan-gakkou.jp



募集を通じて集まったメンバーによるピノキオシティでの遊びづくりワークショップ。「風に反応して色を変えるLED照明」と「空気砲」というツールが与えられ、それを使ってどのような遊び方があるか、実践しながら開発していく。



2007年開発の「秋の実りカレー」と2009年開発の「ピノキオカフェ」。その他合計5種類のオリジナルメニューが、イベントに先駆け10月5日より復活販売される。



松田 朋春氏  
スパイラル/株式会社ワコールアートセンター チーフプランナー  
ピノキオプロジェクト・五感の学校をはじめ、アートを通じた柏の葉地域の街づくり企画をプロデュース。その他、2005年愛・地球博公式アートプログラムでプランニングを担当するなど、地域開発やイベント、商品開発、広告企画に携わる。

## キーパーソン・トーク

ピノキオプロジェクトと他の子ども向けイベントの大きな違いは、意識的に大人を介在させている点にあります。子どもの自主性を最大限に生かしながらも、職業体験であればそのお店で働く職人、ワークショップやピノキオシティであればアーティストと一緒に活動して子どもをサポートします。大人と一緒に働くことで、仕事に取り組む姿勢やプロフェッショナルな行動・技術を見習うことができ、大人への敬意が生まれ成長の糧となるからです。とにかく子どもの自由にやらせて結果はどうなってもいいというプロジェクトではなく、しっかりとした成果を作り上げる過程を体験させるように心がけています。

もう一つ重要な点は、ピノキオプロジェクトはア

ートプロジェクトであることです。アートには、「風景を変える力」があります。風景が変わると、そこには人は注目します。普段見慣れないものは、どんなことをしているんだろう、と気になるものです。だからこそ、ピノキオではただ職業体験をするのではなく独自の衣装を身にまとい、巨大なピノキオバルーンを掲げて子どもたちだけのオリジナルの街を建設しています。周囲の注目が集まることで、参加者が増えてプロジェクトが大きくなっていきます。

柏の葉ではピノキオ以外にも数多くのアートプロジェクトを展開していますが、最終的な目標は市民が「どんなことをしているのだろう」と思う機会を増やし、「この街では色々なことを楽しめるのだ、やっていいのだ」と認識してくれるようになることです。そうなれば、街で何かを仕掛けようとする人が増え、きっと面白い街になると思います。

### □編集後記□

子どもたちが一生懸命遊びを考えるワークショップを取材中、その真剣さや段取りの良さにびっくり。とはいえ、休憩になればすぐさま全員がお菓子を食べだす姿は、「やっぱり子どもだなあ」と安心(?)しました。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川

〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13

TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688

E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB http://www.udck.jp

柏の葉  
アーバン  
デザイン  
センター

UDCK